



グラウンドに仮設住宅が建設された
山田中学校



黒沢一成議員

健康行政

児童生徒の心の状態は

ケアが必要な子が増

質問
①震災から約1年を経て子供たちの心の状態は。
②スポーツ振興に関して、町民駅伝大会の開催予定は。

岩船教育長

①震災直後から町内の教職員は子供たちの心に寄り添った教育に努め、丁寧

に対応している。また、県派遣の巡回型スクールカウンセラーを希望のあった小学校に配置している。しかし、時間がたつにつれ、心のケアを必要とする子供が少しずつ増えてきている。現在、小学校で巡回型スクールカウンセラーによ

そのほかの質問

- ◆漁業後継者・新規担い手の見込みについて
- ◆農業の復興について
- ◆観光イベントについて
- ◆快適リフォーム事業について
- ◆地域防災計画の見直しについて
- ◆さくら幼稚園の活用について

町の考えを聞く

る心のケアを受けている児童数は16人。また、山田中学校に週1回スクールカウンセラーを配置しており、心のケアを受けている生徒は9人。今後、さらに充実を図る。

②駅伝大会は開催の予定。

質問 心のケアが必要な子供が増えている要因は。

岩船教育長 被災当初、小学校低学年は普通に泣いたりした。しかし、小学校高学年から中学生、高校生は、仕事や家を無くして困っている親に心配をかけたまいとして我慢している。その我慢が限界にきて徐々に影響が出ていて、特にテレビなどで当時の映像を見るとフラッシュバックが起

こる。あるいは、ごく一部ではあるが、震災後に親が子供に手をかけるのがおろそかになったり、やる気をなくしてしまい、虐待、離婚が

出始めている。これは山田町に限ったことではない。この傾向は阪神淡路大震災の例を見ると2、3年後がピークになる。そして8年ぐらいたつとやっと元の状態に戻る。来年度、再来年度をとっても心配している。

そのため、スクールカウンセラーを増やして町に常駐し、親子ともどもケアしてくれるように要望している。しかし、スクールカウンセラーは90%以上が臨床心理士であり、教員の資格を取っただけでなく、さらに心理学を勉強しなければ臨床心理士にはなれない。そのような有資格者が県内に少ないので人員を確保することが大変である。

震災後に教員の加配もあり、山田中では定員30人のところに非常勤も含めプラス9人の先生がいるので、交代で子供たちと親の心のケアをしていきたい。